

# 鹿児島キャリアデザイン専門学校 令和6年度 学校関係者評価

## 1 教育理念

深い人間愛の精神を基調として、人間尊重の理念に基づいて人格の形成を目指し、豊かな人間性と教養を備え、常に進歩し多様化するさまざまな分野のニーズに応えられる有能な人材を育成する。

## 2 教育目標

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、広い視野と協調性を持ち、主体的に課題解決に取り組み、工業、商業実務、教育・社会福祉、文化・教養の各専門分野において、実践で活かせる知識や技術を修得し、常に進化し多様化する社会へ貢献できる有能な人材の育成を目的とする。

## 3 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 「1. 教育理念・目標」に関し、令和5年度はアドミッションポリシーを中心に、各科3つのポリシーの見直しを図った。令和6年度は在校生、オープンキャンパスへの参加高校生を中心に、積極的にポリシーの周知を図るとともに、再定義したポリシーを再評価して、今後の行動指針策定に向けての土台とする。
- (2) 「4. 学修成果」に関し、卒業生の実態把握についてのご意見をいただいた。現状は在校生の実習の有無や県内・県外で隔たりがあるため、今後一律に実態把握ができる仕組みを検討する。
- (3) 「5. 学生支援」に関し、コロナ禍を経て、人とのコミュニケーションが苦手な学生が増加傾向にあるので、まずはクラスでのコミュニケーション力向上に向けての取り組みや、自己分析の指導等を強化し、そのうえで、面接指導のあり方等、各学科とキャリアセンターの連携を一層強化していく。また、卒業生への支援体制についても、更にアプローチを容易にするための仕組みづくりについて検討していく。
- (4) 「10. 社会貢献・地域貢献」に関し、「やらされるボランティア活動から将来の自分へつなげるボランティア活動へ視野を広げる」必要性についてご意見をいただいた。学科の特性により、ボランティア活動に積極的な科とそうでない科があるが、どの科も学習している内容を活かした地域貢献(小中学生対象の職業体験等)を通じて、自己成長できるイベント等が出来ないか、模索していく。

## 4 評価項目の達成および取組状況

### (1) 教育理念・目標

	評価項目	評価
1	学校の理念・目的は定められているか	3.9
2	社会のニーズ等を踏まえた学生の将来構想を抱いているか	3.5
3	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3.4
4	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.5
現状と課題	概ね良好ではあるが、DXによる社会の変化が速いこともあり、各科が業界のニーズを確実に捉えられているかに不安を感じることもある。	
改善策	教育課程編成委員会での委員からの意見やキャリアセンターが企業から聞き取ったこと、また、社会の変化や業界動向をもとに、各科と研究を深め、「業界にもとめられる人材像」を設定していく。	

関係者意見	学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生成AIの驚異的な進化も一つの要因となり仕事の形も変化してきています。このような時代だからこそ、企業の専門学校に対する期待は大きくなっていると感じます。「業界にもとめられる人材」を排出できる学校を期待します。</li> <li>・社会のニーズに合った学びをどう展開するか、教職員の研修・教育状況を知りたい。 ⇒ 各科の教育課程編成委員会で、委員の皆様から最新の現場の状況をヒアリングするとともに、非常勤講師からも最新の状況に沿った授業を展開していただいている。特にこども学科や自動車整備科は、幼稚園・保育園や企業との連携が密であり、ニーズを把握しやすい。</li> <li>・世の中の変化をよく見極めて、これからの社会に必要とされる人財育成が益々重要となるのだと思います。</li> <li>・学校理念や各学科の教育目標等明確に示されており、周知されていると感じた。昨年度に続いて全体的な評価も高く、引き続き積極的に取り組まれることに期待したい。</li> <li>・学生が目指す職種の将来性により着目し、その職種のニーズがどこにあるのか、教育現場において今やるべきことは何か、引き続き情報収集した上で発信していただきたい。</li> </ul>	3.8

(2) 学校運営

	評価項目	評価
1	学園の運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.7
2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.5
3	人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.6
4	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.9
5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.5
現状と課題	概ね良好であるが、まだ効率化を図る余地がある。	
改善策	現行のTeamsをさらに理解することで効率化を図るとともに、ムダを省くための改善活動を継続していく。	
関係者意見	学校関係者評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの様なところに効率化を図る余地があると感じているのかをお伺いしたい。 ⇒ 複数の項目についてもう少し効率化が図れると感じてはいるが、本校単独ではなく、学園全体が関係してくる内容のため、現段階では実現できていない。</li> <li>・生産性の向上のために生成AIなど積極的に活用し、効率化できた分の時間を生徒との積極的なコミュニケーションに使えるようにできると良いと思います。</li> <li>・業務を効率化しその先に出てきた余力の部分をどこに、何に活用していくのか、組織内で検討した上で積極的に取り組んでいただきたい。</li> </ul>	3.5	

## (3) 教育活動

	評価項目	評価
1	業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っているか	3.7
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.5
3	学科等のシラバスは体系的に編成されているか	3.5
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.3
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.7
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.7
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.6
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.7
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.9
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.7
11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.5
12	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.4
現状と課題	概ね良好であるが、確実な職業人育成のためのカリキュラム見直しや教育方法の研究に時間を多く使えていないことがある。	
改善策	業界のニーズを確実に捉え、現在の学生の学びの過程にシンクロさせるカリキュラムに変更させていくとともに、主体性や協調性などの非認知能力を育成する指導スキルを研究していく。	
関係者意見		学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業が求める人材は最終的には非認知能力の高い方なのだろうと思う。キャリアデザイン専門学校は、専門知識の教育以外に社会に関わる非認知能力を育成する学校であるということが学生にとっても企業にとっても魅力的な学校となっていくのだと思う。</li> <li>・今後の教育活動で新たな取り組みがあれば教えていただきたい。また、他校との差別化をどう図っているか教えていただきたい。 ⇒ 新たな取組は自動車整備科のドライビングシミュレーターの導入や、こども学科の姉妹園でのサテライト教室の実施など。また、一昨年に導入した「7つの習慣セルフコーチング」を継続して実施し、学生の主体性向上に努めている。</li> <li>・1人1人の特性を見極め、得意を導き教育に繋げることが大切だと思います。その為にも、教師の能力向上の機会を出来るだけ多くつくる事も大切だと思います。専門的なスキル・知識はもとより人間力・コミュニケーション能力の向上に繋がる教育が必要だと思います。</li> <li>・全体的に高い評価であるが、強いて言えば項目「4」の部分が相対的に低く昨年度と同じ評価になっている。関連する職種の企業と連携することで、学生が将来に希望と覚悟が抱ける教育カリキュラムの検討を引き続き積極的に取り組んでいただきたい。</li> </ul>		3.8

## (4) 学修成果

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3.6
2	資格取得率の向上が図られているか	3.5
3	就職先企業を訪問するなどして卒業生の実態を把握しているか	3.4
現状と課題	卒業生の活躍や現状の聞き取りが不足している。	
改善策	訪問で聞き取るとともに、遠方や訪問できない場合にはForms等の電子ツールを活用し、卒業生の実態を調査する。	
	関係者意見	学校関係者評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生への聞き取りについて昨年度も同様の課題が上がっていたが、昨年度の改善策であった就職先訪問の実施状況をお伺いしたい。 ⇒ 令和7年度9月を目途に、過去3年の卒業生就職先企業に対し、実態調査依頼の公文を発送予定。</li> <li>卒業生の企業からの評価が知りたい。 ⇒ 卒業生の評価については企業も悪くは言いづらい面がある。キャリアセンターによる就職先企業訪問時のヒアリング内容や、保育園幼稚園実習や病院実習時の実習先へのヒアリング内容は該当学科で共有し、その後の指導に活かしている。</li> <li>卒業生の成果が今後集まる生徒のレベルや、募集人員に繋がるのだと思います。卒業後も気にかけて連絡を取り合えるよう在学中のコミュニケーションがとても重要だと思います。</li> <li>昨年度も同じ課題が挙げられていた。改善策にあるように、様々なツールを活用することで負担のない実態調査に取り組んでいただきたい。</li> </ul>	3.3

## (5) 学生支援

	評価項目	評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.7
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.6
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.8
4	課外活動に対する支援体制はあるか	3.4
5	経済的支援制度利用についての情報提供を行っているか	3.7
6	必要に応じて保護者との連携が図られているか	3.5
7	卒業生への支援体制はあるか	3.6
8	高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.6
現状と課題	近年、学生の考え方の変化や成長過程での経験の差などから、学生指導に時間や工夫を要する場面が増えている。学生と個々の教員だけの対応では難しいケースも増えてきている。	
改善策	教職員側がこれまでの学生指導方法の考え方をシフトするとともに、学生への寄り添い方を学ぶ必要がある。外部研修等でスキルを学ぶことや校内研修で学生への寄り添う手法を身に付けていく機会を設ける。また、学生指導において保護者との協力連携が重要になるケースも増加しているため、保護者への連絡のタイミングなど、複数の教員で連携を取りながら決めていくことを推奨していく。	

関係者意見	学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状と課題の内容から、教員の学生指導のスキルを上げるための対応は必須であると思うが、外部の専門家の力をお借りするなどの体制についても必要性を感じた。</li> <li>・多様性の時代にある今、1人1人違う考え方や能力の生徒が集まっていることと思います。これからの時代に合わせて上から目線の「指導」ではなく一緒に考え解決を導き出す為に寄り添う「支援」を学ぶ事が大切だと思います。</li> <li>・改善策にもあるように、教員個人での対応では限界もあり、負担面、リスク面で考えた時にも難しさがあると思われる。学生の相談窓口をより広く、より身近なものとするため、インターネットやHP等オンライン媒体を活用することで、学生の悩みの取りこぼしや急な退学等のリスク軽減に繋がるのではないかと。</li> <li>・発達が気になる学生がいる場合、病院受診を促すことも配慮の一つになる。</li> <li>・発達障害が疑われる場合であっても、保護者が認めないことがある。小中で支援学級に通う生徒の8割は普通高校に進学しているといわれているが、高校の教育現場がそれらの学生支援に追いつかない状況である。 ⇒ 合理的配慮が必要なことをクラスや就活時に開示することを望まない場合がある。開示すれば周囲のサポートが得られる場合もあるが、非開示だと学校生活や就職後に苦労する場合がある。</li> <li>・本人は発達障害を認めると楽になるが、親が認めたがらないケースがある。障害を認めてその特性を伸ばしてあげたほうが本人のためになる。認めないまま、できないことを修正しようとするとうつ病等になる場合があるため、精神を病まないようサポートする必要がある。</li> </ul>	3.8

(6) 教育環境

	評価項目	評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.2
2	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	3.5
3	防災訓練を定期的実施しているか	3.8
現状と課題	いくつかの学科で学生のPC所有を前提とした授業形態への転換を進めてきたため、場所を選ばずに学習できる環境が整ってきた。その一方で、接続するPCが増えたことにより、ネットワーク環境が不安定なエリアも一部確認されるようになった。	
改善策	ネットワークも含め、授業や学校生活に支障が出ないようできることから環境整備を行っていく。	
関係者意見	学校関係者評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク環境の充実度は、学生の学校への満足度の割合は大きいように思う。パソコンがネットワークに繋がらないとかなりのストレスを感じるのではないかと。</li> <li>・インターネット環境は確実に繋がる環境が、教育を行う上でマストな時代だと思います。</li> </ul>	3.5	

## (7) 学生の受け入れ募集

	評価項目	評価
1	学生募集活動は適正に行われているか	3.6
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.5
3	授業料等、徴収する金額はすべて明示しているか	3.9
現状と課題	募集活動は適正に行われているが、入学生の減少が顕著に見られるようになった。	
改善策	教育成果はもちろん、職業の魅力発信を強化していく必要がある。業界や企業との連携や募集イベントの見直しを図り、確実な募集活動を行っていく。	
	関係者意見	学校関係者評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学生の減少について、原因の分析は出来ているのでしょうか。その原因分析を踏まえての改善策なのか。 ⇒ 学科ごとに原因分析に取り組んでいる。少子化や修学支援の拡充による4年制へのシフトなど、いくつか要因は考えられるものの、明確なことは分からず、単年度の結果だけ見ても傾向はつかみづらい。</li> <li>・少子化の中で生徒募集で工夫されていることを知りたい。</li> <li>・時代が変化する中、生徒募集の方法も多岐に渡ると思います。SNSやYouTubeなどの活用も必要だと思います。</li> <li>・入学生の減少は学校側だけの問題ではないかと思われる。関連業界と連携し検討していくことを、引き続き積極的に取り組まれることに期待したい。 ⇒ 自動車整備科は複数の企業による企業奨学金制度の構築をしており、関連企業12社が参加するカーフェスタも実施した。今後は他学科でも同様の取り組みができるよう企業等に働きかけていきたい。</li> <li>・大学と専門学校の違いをいかに説明するかが重要。大学生は奨学金の返済が負担になっている場合があり、少しでも早く自立したい人には専門学校が良い。最低賃金もあがってきており、大卒と専門卒の新卒者の差も縮まりつつある。有資格者は企業にとって非常にありがたい。</li> </ul>	3.5

## (8) 財務

	評価項目	評価
1	学校の収支のバランスは取れているか	2.9
2	予算編成は教育目標・業務計画と整合性があるか	3.4
3	財務について会計監査を適切に実施しているか	3.5
4	財務の情報公開はされているか	3.7
現状と課題	学生数の減少が影響し、収支のバランスが取れなくなっている。	
改善策	学生数を確保する取り組みを強化するとともに、学校および職業の魅力を発信していく。	
	関係者意見	学校関係者評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収支のバランスは学校の存続に関わってくると思いますので、(7)の原因の分析をしっかりと行う必要があるのではないかと。</li> <li>・これから益々加速する少子化に向けて、生徒募集にあたり重要なポイントをしっかりと抑えることがとても重要だと思います。学科の魅力、先生の魅力、学校の魅力を上げる事。そして、その魅力をしっかりとPRすることが必要だと思います。</li> </ul>	2.8

## (9) 法令等の遵守

	評価項目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.8
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.7
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.4
4	自己評価結果を公開しているか	3.8
現状と課題	概ね良好である。	
改善策	なし	
関係者意見		学校関係者評価
・法令順守は絶対である！とこれからも関わる皆の周知徹底が必要だと思います。		4.0

## (10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.2
3	地域に対する公開講座やイベント支援等を積極的に実施しているか	3.3
現状と課題	ライブホールや体育館等の施設の貸し出しは増えてきてはいるが、ボランティア活動や地域イベントへの参画については不十分である。	
改善策	施設だけでなく、近隣地域に貢献できるものをリサーチしていくとともに、近隣中学高校には職業理解の出張授業受け入れ等の発信を行っていく。	
関係者意見		学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣中学高校との関わり合いは、学校の魅力を伝える良い機会だと思う。積極的な対応をお願いしたい。</li> <li>・地域貢献（地域の評価）が目に見える形で表に出ていないと感じる。 ⇒ こども学科やTV映像音響科へのイベント協力依頼は数多く、毎年多数取り組んでいるが、学校名の認知に繋がっていない。</li> <li>・ボランティア活動の意義や、環境を整えて参加を促し、その意義を感じる生徒を増やすことが未来の仕事に向けてとても重要だと思います。</li> <li>・開かれた校舎や常に活気のある環境は学生の学びの場としてだけでなく、地域にとっても有益であると考えている。様々な取り組みに積極的に関わる姿勢は、世間的な評価や広報にもつながり、直接的でなくても新入生の確保にもつながるのではないだろうか。引き続き積極的に取り組まれることに期待したい。</li> <li>・鹿児島情報高校は谷山商店街7通り会のうちの一つに所属し、谷山ふるさと祭りに協力している。鹿児島キャリアデザイン専門学校も踊り連ではなく、全体的な関りを持ってはどうか。</li> <li>・社会福祉法人は公益的な取組が求められる。最近では採用活動の面接の際、この取組について質問してくる学生もいる。ここが伸びれば保護者も喜ぶので、CSR活動をHPで告知してはどうか。</li> </ul>		3.0

## (11) 国際交流

	評価項目	評価
1	留学生の受け入れを行っているか	3.9
2	留学生の受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3.9
3	留学生の学修・生活指導等が適切に行われているか	3.8
現状と課題	留学生受け入れ教育機関の適正校（クラス1）に選定されているため、特になし。	
改善策	なし	
関係者意見		学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の展望を教えてください。  ⇒ さるだけ多国籍になるよう募集を行っている。近隣諸国には職員が直接赴き、募集に力を入れている。日本語科が留学生受け入れ教育機関の適正校（優良校）に認定されてからは申請が承認されやすくなった。令和7年度秋に、文科省に認定日本語教育機関の認定を申請予定。</li> <li>・今後さらに需要が増える分野であると思います。</li> </ul>		4.0

## 5 学校関係者評価委員のご意見に基づく改善方法

- (1) 「3.教育活動」に関し、「専門知識の教育以外に、社会に関わる非認知能力を育成する学校であるということが学生にとっても企業にとっても魅力的な学校となっていく」とのご意見をいただいた。令和7年度の重点実施項目のひとつに『学生の「生きる力」「心の力」を育てる』という項目を掲げ、学生の知識・経験不足を補う指導、日常の基本行動や社会に順応できる非認知能力の育成、主体性教育に取り組む。特に学生が「自信を持てる」「ストレスに強くなる」「良好な人間関係を築ける」よう、『自己に関する力』の理解と向上に努める。
- (2) 「5.学生支援」に関し、「これからの時代に合わせて、上から目線の「指導」ではなく一緒に考え解決を導き出す為に寄り添う「支援」を学ぶ事が大切」とのご意見をいただいた。学生に寄り添う支援を実現するためには教員の傾聴力・観察力の向上が必要不可欠である。外部の専門家による研修も活用しながら、それらの向上に努める。
- (3) 「10.社会貢献・地域貢献」に関し、「地域貢献（地域の評価）が目に見える形で表に出していない」とのご意見をいただいた。地域のショッピングモールでの仕事体験フェアの実施、中学・高校を対象とした「出前授業」の準備などを通じ、地域貢献、校名の認知度向上とともに、将来の学生受け入れ募集に繋がるよう、努めていく。